

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	1-2-1		事業名	新しいタイプの定時制高校「市立札幌大通高等学校」の設置			
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)	
市立札幌大通高等学校の開設	—	準備	開設			開設 (20年度)	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加</p> <p>ホームページなどにより市民への情報提供を積極的に行った。</p> <p>また、暫定校舎の解体工事期間中の諸問題や学校運営に関して近隣地域に係わる事柄に関することについて、近隣地域と協議・意見交換などを行い、円滑な学校運営を行ってきた。</p> <p>さらに、市民が主体となる「さっぽろ市民カレッジ講座」への校舎供用や、生徒参加による相互協力を通じ開かれた学校づくりに取り組んできた。また、外部有識者として市民等の協力を得て「さっぽろ大通応援団」を運営するなど、学校支援に向けた取組を始めた。</p> <p>■企業等との連携・協働</p> <p>[資金協力](該当なし)</p> <p>[人材協力](該当なし)</p> <p>[情報協力](該当なし)</p> <p>[その他の協力](該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p> <p>(該当なし)</p>							
評価(成果)			課題				
<p>大通高校の開校に当たっては、専任の教職員が常駐する開校準備室を設置するとともに、統合により閉校・閉課程となる既存4校と協議を行いながら準備を進めることで、平成20年4月の暫定校舎での大通高校の開校及び平成22年4月の新校舎の供用開始に併せた既存4校の生徒の転校・校舎移転について、円滑に実施することができた。</p> <p>また、新校舎の建設や暫定校舎の解体等の施設整備については、PFI事業者や保護者・近隣住民等と密に調整を行いながら実施するとともに、新校舎の施設の一部を「市民開放スペース」として整備しPFI事業者が管理運営を行う等、地域に開かれた学校づくりに向けた環境整備を進めてきた。</p> <p>また、教育活動の面からは、午前、午後、夜間の三部制や単位制の導入、多様な科目設定等の取組を進めることで、生徒一人ひとりの興味関心・進路希望等に対応できる学校づくりを行うことができた。</p> <p>その他、一部の科目の学習を希望する社会人を聴講生として受け入れる「科目履修生制度」を導入し、学校の教育機能を地域社会へ提供し、社会人の生涯学習の推進に寄与した。</p>			<p>PFI事業については、円滑な運営のため、今後も継続してPFI事業者と連絡調整を行うとともに、PFI事業による施設整備・運営管理について、その有効性を検証していく必要がある。</p> <p>大通高校の生徒数については、統合前の定時制課程と生徒定員総数は変わらないが、入学者が定員を満たしており、市立高校定時制課程の在籍生徒総数としては増加しているため、今後においても、円滑な学校運営ができるよう、在籍生徒総数に応じた予算確保について考えていく必要がある。</p> <p>また、大通高校では、外部人材を活用した様々な取組を始めているが、取組を進める中で、大通高校には、多様なニーズを持った生徒がいるため、外部人材を活用する領域が多岐に渡ることがわかってきた。これは、単位制と三部制を定時制の仕組みに導入することで、これまでの学校制度に必ずしも馴染めなかった生徒に新たな選択肢を提示したものと考えられる。</p> <p>今後は、様々な生徒に対応する各種取組の位置づけの整理と、継続的に外部人材からの支援を得られるような体制作りを図っていく必要がある。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>平成23年度には大通高校開校時の入学生が4年次となり、大通高校の様々な取組が本格化する。これまで施設や制度等を整備してきた「市民開放スペース」の運営、「科目履修生制度」や「さっぽろ市民カレッジ講座」の実施等、今後も地域に開かれた学校づくりに向けた学校運営を進める。</p> <p>また、財団法人札幌市青少年女性活動協会の職員によるキャリアカウンセリングの実施をはじめ、北海道大学大学院生による臨床心理実習の一環としてのスクールカウンセラーの実施、外部有識者で構成する「さっぽろ大通応援団」の運営など、外部人材によるきめ細かな支援を得ながら、困難な課題を抱えた生徒に対する取組等を今後も実施していくことで、生徒の多様な興味・関心、進路希望等に対応した特色ある教育活動の一層の推進を図っていく。</p>							

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		1-2-1			事業名	新しいタイプの定時制高校「市立札幌大通高等学校」の設置					
事業費の推移											
項目		19年度		20年度		21年度		22年度		計	
計画	事業費	156,400		4,000		2,250,932		258,668		2,670,000	
	財源内訳	国・道支出金	0		0		38,430		0		38,430
		市の債	0		0		1,736,000		0		1,736,000
		その他の	0		0		0		0		0
	一般財源	156,400		4,000		476,502		258,668		895,570	
予算	事業費	156,400		3,400		2,453,000		306,000		2,918,800	
	財源内訳	国・道支出金	0		0		38,464		0		38,464
		市の債	0		0		1,200,000		45,000		1,245,000
		その他の	0		0		0		0		0
	一般財源	156,400		3,400		1,214,536		261,000		1,635,336	
実績	事業費	145,219		3,360		2,377,286		306,684		2,832,549	
	財源内訳	国・道支出金	0		0		76,891		0		76,891
		市の債	0		0		1,200,000		45,000		1,245,000
		その他の	0		0		0		0		0
	一般財源	145,219		3,360		1,100,395		261,684		1,510,658	
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)								106.1%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)											
《全体》											
[19年度]											
[20年度]											
[21年度]											
[22年度]											